エルサレム入城

□前回までのハイライトからのつながり

紀元 29 年秋　仮庵の祭り

⇩

六回目のメシア的奇跡と指導者層の糾弾

民衆による拒否
「ヨナのしるし」の予告②

その日のうちにパリサイ人の家での
食事に招かれ、その席にて

⇩

紀元 29 年冬　宮きよめの祭り

⇩

ヨナのしるしと七回目のメシア的奇跡　　紀元 29 年 12 月末～紀元 30 年 3 月の間

ラザロのよみがえり
議会はそれでも拒否

ツァラアト患者 10 人の癒やし
議会議長大祭司カヤパに向けての奇跡

⇩

群衆が出迎える

エルサレム入城　　紀元 30 年春　ニサンの月 10 日
（紀元 30 年 4 月 2 日）

この年のニサンの月 10 日は、「週のはじめの日」（日曜日）

紀元 30 年春　過越の祭り　ニサンの月 14 日・種なしパンの祭り　15 日から七日間

過越の食事＝14 日に羊をほふり、食事の準備。日没後、日付は 15 日になっての夕食

15 日（紀元 30 年 4 月 7 日）：過越の食事、逮捕、夜明け後にローマの裁判、十字架刑

初穂の祭り＝種なしパンの祭りの七日間の中の「安息日」の、翌日

この年の安息日は 16 日⇒初穂の祭りは 17 日
（紀元 30 年 4 月 9 日）

この年は、15 日から三日目に、初穂の祭り

三日目に
復活

□アウトライン

A）　過越の羊

B）　ニサンの月 8 日　ベタニア入り

C）　ニサンの月 10 日　エルサレム入城

A）　過越の羊

ニサンの月の 10 日に群れから取り分け、14 日までそれをよく見守る

1.　過越の羊と過越の食事についての主の命令　（出エジプト　紀元前 1446 年頃）

12：1～3　主はエジプトの地でモーセとアロンに言われた。

「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。

イスラエルの全会衆に次のように告げよ。

この月の十日に、それぞれが一族ごとに羊を、すなわち家ごとに羊を用意しなさい。

12：5～8　あなたがたの羊は、傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。あなたがたは、この月の十四日まで、それをよく見守る。

そしてイスラエルの会衆の集会全体は（十四日の）夕暮れにそれを屠り、その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と鴨居に塗らなければならない。

そして、その夜（十五日）、その肉を食べる。それを火で焼いて、種なしパンと苦菜を添えて食べなければならない。

12：11～13　あなたがたは、次のようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を固く締め、足に履き物をはき、手に杖を持って、急いで食べる。これは主への過越のいけにえである。その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人から家畜に至るまで、エジプトの地のすべての長子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下す。わたしは主である。

その血は、あなたがたがいる家の上で、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。

2. 過越の祭りと種なしパンの祭りについての主の命令

12：14　この日は、あなたがたにとって記念となる。あなたがたはその日を主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠の掟として、これを祝わなければならない。

12：15～20　七日間、種なしパンを食べなければならない。
その最初の日に、あなたがたの家からパン種を取り除かなければならない。
最初の日から七日目までの間に、種入りのパンを食べる者は、みなイスラエルから断ち切られるからである。
また最初の日に聖なる会合を開き、七日目にも聖なる会合を開く。この期間中は、いかなる仕事もしてはならない。ただし、皆が食べる必要のあるものだけは作ることができる。
あなたがたは種なしパンの祭りを守りなさい。それは、まさにこの日に、わたしがあなたがたの軍団をエジプトの地から導き出したからである。あなたがたは永遠の掟として代々にわたって、この日を守らなければならない。
最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種なしパンを食べる。
七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。すべてパン種の入ったものを食べる者は、寄留者でも、この国に生まれた者でも、イスラエルの会衆から断ち切られる。あなたがたは、パン種の入ったものは、いっさい食べてはならない。どこでも、あなたがたが住む所では、種なしパンを食べなければならない。」

3. 過越の羊は、イエス・キリストの模型。究極の犠牲は、イエス・キリストが十字架の上で流した血である。洗礼者ヨハネは、イエスを指して次のように証しした。

ヨハネ 1：19～29　さて、ヨハネの証しはこうである。ユダヤ人たちが、祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして、「あなたはどなたですか」と尋ねたとき、ヨハネはためらうことなく告白し、「私はキリストではありません」と明言した。・・・その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。

4. イエスは、私たちの罪のために神が備えた「過越の羊」として、ニサンの月の 10 日にエルサレムに入城した。そして、14 日まで傷のないこと（罪のないこと）を明らかにしたうえで、15 日に十字架にかかった。

B）ニサンの月 8 日　ベタニア入り

1. 人々の関心と指導者層の警戒（ヨハネ 11：55～57）

   55～57 節　**さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づいた。多くの人々が、身を清めるため、過越の祭りの前に地方からエルサレムに上って来た。彼らはイエスを捜し、宮の中に立って互いに話していた。「どう思うか。あの方は祭りに来られないのであろうか。」祭司長たち、パリサイ人たちはイエスを捕らえるために、イエスがどこにいるかを知っている者は報告するように、という命令を出していた。**

2. イエスはエルサレム近郊の村、ベタニアに到着（ヨハネ 12：1）　ニサンの月 8 日

   1 節　**さて、イエスは過越の祭りの六日前にベタニアに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。**

   - **過越の祭りの六日前**・・・過越の祭りは 14 日、その六日前なので 8 日

3. 人々と指導者層の反応（ヨハネ 12：9～11）　ニサンの月 9 日

   9～11 節　**すると、大勢のユダヤ人の群衆が、そこにイエスがおられると知って、やって来た。イエスに会うためだけでなく、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロを見るためでもあった。祭司長たちはラザロも殺そうと相談した。彼のために多くのユダヤ人が去って行き、イエスを信じるようになったからである。**

   - 人々がやって来た日を 9 日とするのは、ヨハネ 12：12「**その翌日**」にエルサレム入城（10 日）があったから。

注意：ヨハネ 12：2～8 の記事「マリアによるイエスへの油注ぎ」は、ニサンの月 13 日、または 14 日の出来事

ニサンの月 12 日、オリーブ山での説教のあと、死の予告④（マタ 26：1～2）
そのあと、夜になると日付は 13 日、その夕食の席、または、
13 日の夕方のあと、日付は 14 日になってからの夕食の席、いずれか。

C）ニサンの月 10 日　エルサレム入城

1.　ろばの子を連れて来させて、イエスはそれに乗る（マタイ 21：1～7）

1～7 節　さて、一行がエルサレムに近づいて、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来たそのとき、イエスはこう言って、二人の弟子を遣わされた。「向こうの村へ行きなさい。そうすればすぐに、ろばがつながれていて、一緒に子ろばがいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。もしだれかが何か言ったら、『主がお入り用なのです』と言いなさい。すぐに渡してくれます。」このことが起こったのは、預言者を通して語られたことが成就するためであった。「娘シオンに言え。『見よ、あなたの王があなたのところに来る。柔和な方で、ろばに乗って。荷ろばの子である、子ろばに乗って。』」そこで弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにし、ろばと子ろばを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。それでイエスはその上に座られた。

- 預言者を通して語られたこと・・・ゼカリヤ 9：9

  娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。
  見よ、あなたの王があなたのところに来る。
  義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。
  雌ろばの子である、ろばに乗って。

その子ろばはまだ人を乗せたことのないことをイエスは知っていた（ルカ 19：30）
30 節　「向こうの村へ行きなさい。そこに入ると、まだだれも乗ったことのない子ろばが、つながれているのに気がつくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。

弟子たちが子ろばを見つけに行ったときの記事（マルコ 11：4～6）
4～6 節　弟子たちは出かけて行き、表通りにある家の戸口に、子ろばがつながれているのを見つけたので、それをほどいた。すると、そこに立っていた何人かが言った。「子ろばをほどいたりして、どうするのか。」弟子たちが、イエスの言われたとおりに話すと（「主がお入り用なのです。すぐに、またここにお返しします」）、彼らは許してくれた。

- そこに立っていた何人かが・・・ルカ 19：33「持ち主たちが」

2.　イエスがろばの子に乗って進んで行く途中で起きた出来事（ルカ 19：36～44）

36～40 節　イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。イエスがいよいよオリーブ山の下りにさしかかると、大勢の弟子たちはみな、自分たちが見たすべての力あるわざについて、喜びのあまりに大声で神を賛美し始めて、こう言った。「祝福あれ、主の御名によって来られる方、王に。天には平和があるように。栄光がいと高き所にあるように。」するとパリサイ人のうちの何人かが、群衆の中からイエスに向かって、「先生、あなたの弟子たちを叱ってください」と言った。イエスは答えられた。「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」

41～44 節　エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら――。しかし今、それはおまえの目から隠されている。やがて次のような時代がおまえに来る。敵はおまえに対して塁を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、そしておまえと、中にいるおまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らはおまえの中で、一つの石も、ほかの石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、おまえが知らなかったからだ。」

3.　イエスはろばの子に乗ってエルサレムに入城（マタイ 21：8～11）

8～11 節　すると非常に多くの群衆が、自分たちの上着を道に敷いた。また、木の枝を切って道に敷く者たちもいた。群衆は、イエスの前を行く者たちも後に続く者たちも、こう言って叫んだ。「ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。ホサナ、いと高き所に。」
こうしてイエスがエルサレムに入られると、都中が大騒ぎになり、「この人はだれなのか」と言った。群衆は「この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ」と言っていた。

- 木の枝を切って・・マルコ 11：8 では「葉の付いた枝を野から切って来て」、ヨハネ 12：13 では「なつめ椰子の枝を持って迎えに出て行き」とある。これは、本来、春の過越の祭りではなく、秋の仮庵の祭りと関係する。

  レビ記 23：39～43　特に、あなたがたがその土地の収穫をし終える第七の月（10 月）の十五日には、七日間にわたる主の祭りを祝わなければな

らない。最初の日は全き休みの日であり、八日目も全き休みの日である。最初の日に、あなたがたは自分たちのために、美しい木の実、なつめ椰子の葉と茂った木の大枝、また川辺の柳を取り、七日間、あなたがたの神、主の前で喜び楽しむ。年に七日間、主の祭りとしてこれを祝う。これはあなたがたが代々守るべき永遠の掟であり、第七の月に祝わなければならない。あなたがたは七日間、仮庵に住まなければならない。イスラエルで生まれた者はみな仮庵に住まなければならない。これは、あなたがたの後の世代が、わたしがエジプトの地からイスラエルの子らを導き出したとき、彼らを仮庵に住まわせたことを知るためである。わたしはあなたがたの神、主である。」

仮庵の祭りでは木の枝を切って仮小屋をつくり、出エジプトの荒野の旅を記念する。出エジプトはイスラエルの建国に向けてのスタートであるから、仮庵の祭りは建国を祝う祭でもある。そして、メシアの王国に関する旧約聖書の預言の中には、メシアの王国でも仮庵の祭りを大切な祭りとして祝うという預言がある（ゼカリヤ 14：18～19）。これにより、紀元 1 世紀のユダヤ人たちにとっては、仮庵の祭りはメシアの王国を連想させる祭りであった。

イエスが、ゼカリヤ 9:9 の預言のとおり、子ろばに乗ってエルサレムに来た。人々は、いよいよメシアの王国が到来すると期待した。そこで、木の枝を切ってきて、イエスの進路に敷いたのであった。

- **ホサナ、ダビデの子に。祝福あれ、主の御名によって来られる方に・・・**ホサナとは、ヘブル語で「私たちをお救いください、私たちはあなたに懇願します」の意味。人々は、詩篇 118：25～26a を歌っている。「**主の御名によって来られる方**」とは、メシアを指す。
  - マルコ 11：10 では、群衆は次のように叫んだ。「**祝福あれ。われらの父ダビデの、来たるべき国に。ホサナ、いと高き所に。**」メシアの王国は、主がダビデ王と結んだ契約（ダビデ契約）の約束に基づく（Ⅰ歴 17：1～15）。「**ダビデの、来るべき国**」とは、メシアの王国を指す。
  - ヨハネ 12：13 では「**ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に。**」　人々はイエスを「**イスラエルの王**」として迎えた。

- しかし、このときは秋の仮庵の祭りではない。イエスはイスラエルの王としてエルサレムに入城したのではない。このときは春の過越の祭りである。イエスは過越の祭りにおいて、過越の羊として十字架にかかって死ぬためにエルサレムに来たのである。このことを群衆は理解していなかった。これらのことは、弟子たちもまた、このときは「**分からなかった**」（ヨハネ 12：16）

4. イエスは神殿に行き、目の見えない人たちや足の不自由な人たちを癒やしたが、指導者層はイエスに腹を立てた（マタイ 21：14～17）

14～17 節　**また、宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちがみもとに来たので、イエスは彼らを癒やされた。ところが祭司長たちや律法学者たちは、イエスがなさったいろいろな驚くべきことを見て、また宮の中で子どもたちが「ダビデの子にホサナ」と叫んでいるのを見て腹を立て、イエスに言った。「子どもたちが何と言っているか、聞いていますか。」イエスは言われた。「聞いています。『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』とあるのを、あなたがたは読んだことがないのですか。」イエスは彼らを後に残し、都を出てベタニアに行き、そこに泊まられた。**

- **イエスがなさったいろいろな驚くべきこと・・・**この日、イエスが宮の中で、目の見えない人たちや足の不自由な人たちを癒やしたこと。旧約聖書のメシア預言では、メシアの王国が始まるときに、メシアは次のような奇跡を行うと預言されている

  イザヤ 35：5～6 **そのとき、目の見えない者の目は開かれ、耳の聞こえない者の耳は開かれる。そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う。**

  イエスは、ここで、いわば、メシア王国の予告篇を見せているようなものである。指導者層はそれを見ても神をほめたたえることなく、また、病や障害に苦しんでいた人たちが癒されたことを喜ぶことなく、逆にイエスに腹を立てた。

- **『幼子たち、乳飲み子たちの口を通して、あなたは誉れを打ち立てられました』**・・・詩篇 8：2　**幼子たち　乳飲み子たちの口を通して　あなたは御力を打ち立てられました。あなたに敵対する者に応えるため　復讐する敵を鎮めるために。**

5. 群衆がイエスを出迎えた背景には、ラザロのよみがえりを目撃した人々がそのことを言い広めていたことがあった（ヨハネ 12：17～19）

17～19 節　**さて、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたときにイエスと一緒にいた群衆は、そのことを証しし続けていた。群衆がイエスを出迎えたのは、イエスがこのしるしを行われたことを聞いたからであった。それで、パリサイ人たちは互いに言った。「見てみなさい。何一つうまくいっていない。見なさい。世はこぞってあの人の後について行ってしまった。」**

6. マルコの福音書は、エルサレムに入城してからの出来事を詳しく書かず、次のような短い記事にまとめている（マルコ 11：11）

11 節　**こうしてイエスはエルサレムに着き、宮に入られた。そして、すべてを見て回った後、すでに夕方になっていたので、十二人と一緒にベタニアに出て行かれた。**

- 祭りの期間中、イエスと弟子たちはベタニア村を宿泊先とした。朝ベタニアを出て、オリーブ山を通ってエルサレムへ行き、夕方になるとベタニアに帰るというパターンを繰り返した。